

1 学校教育目標

人間尊重の精神を基本とし、心身ともに健康で知性と感性に富み、人間性豊かな児童の育成を目指し、次の三項目を教育目標とする。

- 思いやりのある子 …自分に自信をもち、友だちを大切にできる子
- よく考える子 …めあてをもち、意欲的に学習する子
- たくましい子 …あきらめない強い心とやり遂げる体力のある子

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	○子供が学びたくなる、明るく楽しい学校 ○保護者や地域の方が通わせたい学校 ○教職員が協働し、充実感と誇りのもてる学校
○児童・生徒像	○自分に自信をもち、友だちを大切にできる子 ○めあてをもち、意欲的に学習する子 ○あきらめない強い心とやり遂げる体力のある子
○教師像	○子供のよさを認め・伸ばし、情熱をもって育むという信念をもつ教職員 ○協働性を重んじ組織の一員として自己の職責を果たすことができる教職員 ○授業力向上のために、努力を惜しまない教員 ○課題を解決するために、主体的に考え、新たな発想を生み出すことができる教職員 ○考えや発想を、適時実践に移すとともに、自己評価を適切に行い研鑽する教職員

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

○学校の現状について

令和6年4月現在、602名の児童が在籍している。令和6年度は101名の新1年を迎え18学級でスタートした。また、特別支援教室には40名を超す児童が入室した。児童は落ち着いた雰囲気ですべての児童がスタートできたが、学力・体力・多様な人との関わり方など課題は山積している。また、加平小に勤務する教職員は概ね1/3程度の入れ替えがあり新たな組織体制づくりも求められている。加平小にとって、教職員の入替があったとしても教育の質を低下させないよう「笑顔あふれる加平小」の実現のため持続可能な加平小学校の学校運営を目指したい。

新たに加わった教職員はもとより、改めて教職員集団の協働性を育み、常に協働性と組織的対応、学校として、共通の指導観をもって多様な人との関わりを意図的に展開していく中で、職務を遂行し保護者・地域から信頼を得る学校運営を実現していきたい。そのために校長が明確な経営方針を発信し、副校長・主幹教諭を組織の要として他の教職員を導けるよう、管理職が率先垂範して教職員や児童、保護者の状況を把握するとともに、教員同士が互いに声を掛け合い、専門性を生かして研鑽し合い指導力を高め合える教員集団を目指したい。引き続き若手教員が複数在籍していることから、これで積み上げてきた成果を存分に活用し、加平小学校の教育の質が低下しないよう教員一人一人が自己の職責を果たさせたい。

令和6年度も引き続き持続可能な学校運営ができるよう、今後の加平小学校を担う人材の育成を確実に行う。これからもライフ・ワーク・バランスを保ちながら、例えば、校務の平準化と一般化、教育の質の担保等、人員が入れ変わっていく中でも、学校教育全般が円滑に進められるよう全教員で取り組んでいく。また、保護者や開かれた学校づくり協議会など地域の方々との連携を一層充実させ、子供たちに最良の教育を提供できるよう、本校の歴史と伝統を受け継ぎ、引き続き学校改革を推しすすめていく。

重点的な取組事項－１ 人権と生命を尊重する教育

「学校は楽しい」の項目は自己評価94.1%で設定目標を達成した。しかし、昨年度より3.4ポイント減じてしまったことから、引き続き、新たな方法や取組を模索しながら、人権教育や道徳教育の充実、ふれあい月間、たてわり班活動、音楽集会・鑑賞教室等による心の教育の充実を図る。また、多様な人との関りを意図的に設定し望ましい人間関係の構築を目指したい。その一助として、「足立区フューチャースクール」の事業も活用していく。また、様々な形で挨拶運動を展開する。例えば、PTAによる挨拶活動を学校公開期間に実施する。また、児童による挨拶活動を学級ごとの輪番制で実施する。教職員による挨拶活動も通年で取り組み、子供たちの豊かな心を醸成していく。

生活指導の基本方針に掲げている「み・そ・あ・じ」の取組を中心に、引き続き規律ある行動ができるよう学校全体で指導していく。

重点的な取組事項－２ 基礎的・基本的な学力の定着(学力向上アクションプラン)

昨年度は区学力調査通過率80%以上を目指した。国語・算数の基礎的基本的な学力の定着70%以上の児童80%以上を目指してきた。結果、国語88%(昨年度89%)、算数85.9%(昨年度89.1%)であった。全体として目標は達成しつつも微減となってしまった。特に70%に達成していない児童を中心に児童一人一人の基礎的基本的な学力定着状況を把握して、つまずきのポイントを絞って繰り返し指導した。加えて、AIドリルを学校・家庭学習で積極的に活用し学力の定着を図ってきた。

また、小中連携の取組では、教育課題を基に三分科会を編成し学力向上を目指した。各分科会では、講師を招聘し、研究授業・協議会を通して、小中の学びの連続性と児童・生徒のやる気を引き出す工夫について互いに学び合い、授業力・指導力の向上に努めた。また、校内では授業力向上研修として、互いの授業を見合い助言し合う機会を一人6回ずつ設定し授業力・指導力を互いに高めていけるようにした。

重点的な取組事項－３ 体力向上に向けた取組の推進

昨年度は、コロナ禍の制限がなくなったことから、外遊びを推奨し体を動かす機会を意図的に設定した。また、体育部による実技研修や授業に関する資料の提供により、短縄跳びの取組や体づくりの運動、持久走の取組などを展開した。しかし、初夏から秋まで猛暑・酷暑が続き外で遊ぶことができず十分な体力向上に至らなかった。

保健指導は、計測時に行う保健指導や保健だよりによる啓発、食育指導については、輪番制で実施を再開したランチルーム給食、給食だよりによる食育指導など充実を図ってきた。常にPDCA（計画→実践→評価→改善）のサイクルで改善し続けてきたことで成果を上げている。

今年度も常にPDCAサイクルを大切に取組の充実に努めたい。加えて、体力調査の結果から課題を焦点化し、体育の授業の改善、日常の運動する機会の設定等を実施していくことで子供たちの体力向上を目指したい。

また、一層、保健指導・食育指導の充実を図りたい。

重点的な取組事項－４ 地域の特色にあった魅力ある教育活動の展開及び持続可能な学校運営の実現

教科等を横断した学習活動を通して現代社会の課題を主体的に学び解決していこうとする意欲を育むとともに SDGs を意識した持続可能な社会の担い

手としての意欲と態度を育成・開発している。

例えば、各学年において、教科等との関連を明らかにして、地域にある「六町駅前安全安心ステーション(ろくまる)」を活用した教育活動を展開してきた。また、全学年、毎日、タブレット端末を持ち帰りタブレット端末を活用した家庭学習も実施できた。

今後は、障害者の有無に関わらず誰もが楽しめる障害者スポーツ、「ボッチャ」を通じた交流活動を全校で実施していくことで共生社会の意義を理解させたい。更に、俳句や「加平小かるた」、「決まり字かるた」、「あだち環境かるた」の活用や席書会の実施等、伝統的な言語文化に関する指導を通して古典に親しみながら我が国の伝統と文化に対する理解と愛情を育むなどの教育活動を展開したい。「開かれた学校づくり協議会」と連携して、学校・家庭・地域の連携・協働を高め、地域と共に育てる教育の推進と特色ある学校づくり、持続可能な学校運営の実現を目指したい。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R4	R5	R6	R7	R8
1	人権と生命を尊重する教育		◎	◎	◎	
2	基礎的・基本的な学力の定着(学力向上アクションプラン)	◎	◎	◎	◎	
3	体力向上に向けた取組の推進		◎	◎	◎	
4	地域の特色にあった魅力ある教育活動の展開及び持続可能な学校運営の実現		◎	◎	◎	

重点的な取組事項－I		人権と生命を尊重する教育			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
自己肯定感・思いやりの心を育てる (第1PJ)		「楽しく学校生活を送っている」 自己評価94%以上	児童アンケート：91.9%達成	昨年度より2%下がってしまった。今後も友だちや先生とのかかわり合いを通して、すべての児童が楽しい学校生活であるよう努める。	△
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
読書活動の充実 (第3PJ)	読書ファイル 児童アンケート「楽しんで読書できたか」自己評価85%以上	日常的に読書活動に取り組み、本に親しむ態度を養う。 ・読書タイムの時間(15分)自席で読書をする。(週3回) (全学級週1回以上貸し出しの時間を確保する。) ・旬間中は、目標冊数(低10冊・中400ページ・高500ページ)に向けて読書をする。(読書旬間6月2月) ⇒読んだ本の感想などを読書カードに記入する。 ・図書ボランティア、教員や図書委員会による読み聞かせを年2回行う。	・「楽しんで読書できたか」 90.3%達成 ・読書タイムの時間(15分)自席で読書をするのが週3回できている。 ・図書委員会が実施したスタンプラリーもあり、旬間中は、目標冊数(低:10冊・中400ページ高500ページ)を達成(6月)児童は、6月では1年生26人、2年生44人、3年生53人、4年生39人、5年生24人、6年生39人であった。	・図書委員会のビンゴカードの効果もあり、本の冊数だけでなく、本の種類も意識して、多くの本に親しむ姿が見られた。課題として、高学年の図書室の活用がより増えるように考えていく。	○

なかよし標語 (第2PJ)	いじめアンケート項目追加 「友達に優しくできた」 (6月、11月に実施) 左記項目にて肯定的回答率 92%以上	テーマを決めて児童に言葉を書かせ、期間中掲示する。年2回5月「言われた相手がうれしい気持ちになる言葉」 10月「みんながうれしい気持ちになるために自分にできること」 ハート型の用紙を連ねて廊下に掲示する。1年生は用紙を切ることが難しいため、6年生が切ってあげる。1年生はそのお礼をして交流してもよいこととする。	・年間2回、全校児童がなかよし標語を考え、昇降口前のガラス戸に掲示した。1回目は6年生と1年生の交流もできた。 ・アンケートで「友達に優しくできた」と答えた児童は、95.5%であった。	児童が主体的に取り組めるよう、代表委員を中心とした活動として委員会活動の計画に盛り込んでもよい。	◎
あいさつ運動 (第2PJ)	生活習慣チェック(年3回)「自分からすすんであいさつをした」 肯定的回答率92%以上	看護当番(日直)が毎朝昇降口前に立ち、登校を見守りながら児童に挨拶をする。(通年) 学校公開期間中は開かれた学校づくり協議会やPTAの役員の方にあいさつ運動に参加していただく(年2回)	・家族や大人にあいさつをした 94.8%達成 ・靴箱の前で実施した。各学級で役割分担をしてあいさつ運動に取り組むことができた。 ・学校全体的に、気持ちの良い挨拶をすることができた。	当番になった学級の児童も、通常通りの時間に登校してから活動するようにしたことがよかった。当番の時だけでなく、日常的にあいさつができるよう継続して指導する。	○
道徳教育の充実 (第3PJ)	「ふりかえりカード」(児童アンケート)実施 「友達と仲良く助け合うことができた」「友達やクラス、学校のために行動することができた。」 2月 肯定的評価 85%以上	毎週1時間の道徳授業を要に全教育活動で実施 【指導体制】 全教職員 【取り組みのねらい・目的】 ・思いやりの心を育む。 ・道徳地区公開講座の実施 ・人権・生命尊重に関する授業を年3回実施 ・心に関わる掲示コーナーを設ける。	児童アンケート「友達と仲良く助け合うことができた」「友達やクラス、学校のために行動することができた。」両方とも94.1%達成	・週に1時間の道徳の時間を行いながら、一人一人の心を育ててきた。児童の自己評価では9割を超える児童が友達やクラス、学校のために行動することができたと感じていることが分かった。相手のことを思いやり、行動できる児童が多くいる。更に相手の立場になり、相手を思いやる心が育まれていくよう、道徳の授業を要として、日常生活でも思いやりのある行動を価値付けていく必要がある。	◎

児童集会の充実 (第2PJ)	「ふりかえりカード」(児童アンケート)実施 友達やクラス、学校のために行動することができた。 2月 肯定的評価 85%以上	毎週木朝 15 分 【指導体制】 全教職員 【取り組みのねらい・目的】 ・協力・助け合いの心を育む ・縦割り班遊びの実施 ・児童集会・音楽集会の実施	児童アンケート「友達やクラス、学校のために行動することができた。」 91.6%達成 2月にも実施する	集会の目的を明確にし、教育的意義のある集会としていく。来年度は開校60周年の節目であるため、関連する内容で集会を実施する。	○
-------------------	--	--	--	---	---

5 令和6年度の重点目標

重点的な取組事項－ 2		学力向上アクションプラン			
A 今年度の成果目標	達成基準 (目標通過率)	実施結果 (通過率結果)		コメント・課題	達成度 ◎○△●
基礎的基本的な学力の定着 (第3PJ)	・区学力調査目標 通過率 80%以上 ・9月 到達目標 全体 通過率 85%以上 ・2月 到達目標 通過率 75%以上				
		・区学力調査通過率 国語 82.8% 算数 83.3% ・9月全体通過率 国語 84.3% 算数 85.0% ・2月プレテスト通過率 国語 77.2% 算数 73.5%	4月は当初の設定目標を達成し、9月も4月当初の通過率より超えることができた。しかし、9月の国語の全体通過率は到達目標に若干届くことができなかった。なかでも、「言葉・情報・言語文化」「話すこと・聞くこと」がより伸びるように朝学習や家庭学習の中で、漢字練習以外にも取り入れていく。また、算数に関しては、4月よりも下がった児童を中心に個別補充を行い、既習学習がわかることで、現学習の理解にもつながるように行っている。 2月は実施予定。	○	

B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクション プラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程 度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
継 続 ・ 改 善	朝学習の充 実 朝授業(国 語)の充実	算数 国語	毎週 水曜日 (算) 火・金曜 日(国) 朝15分	【指導体制】 担任+専科による 【ねらい・使用教材】 ・学習内容の復習 ・算数 AIドリル ・国語 漢字ドリル・漢字小テスト	AIドリル 漢字小テスト	前年度の内容の AI 問題 年間300問以上 漢字小テスト 80点以上 7割	月平均 25 問以上 漢字テスト 1年 85% 2年 70.3% 3年 72% 4年 71.6% 5年 79.3% 6年 72.7%	朝学習では新出漢字の練習を徹底して行った。漢字の学習では、とめ、はね、はらいを意識して取り組み、何度も練習を行わせて読め書きができるように取り組んだ。結果、学級による差が多少見られたが、どの学年も達成することができた。	○
継 続 ・ 改 善	放課後補充 教室 算数 (全教職員)	目標値未 満の児童	毎週 木 放課後 低:40分 高:30分	【指導体制】 担任+専科 【ねらい・使用教材】 ・つまづきに応じた指導 ・次へのステップ AIドリル	区学力調査 定着度 確認テスト (9月実施)	対象児童を4月の 算数結果点数 より2ポイント以上 あげる	対象児童 79名中 2ポイント以上上がった 児童46名	対象児童の半数以上である58%が2ポイント以上あげることができた。一方、全員には至らなかった。伸ばせなかった児童に関しては、現学習内容と混同している場面や、既習事項がまだ十分ではないところも見られたため、引き続き後期に個別に応じた課題を行っている。	○

継続	「家庭学習の手引き」の活用	全児童	年3回	【ねらい・目的】 ・「家庭学習の手引き」の配布(4月)、啓発(9月・12月) ・宿題の提出率把握と指導	宿題提出状況調査	宿題提出率 93%以上	宿題提出率 9月 88.1% 12月 85.0%	日々の取り組みとしていたが、学級差ができ、9月は全体として93%以上に至らなかった。次年度は6月、9月、11月に細かく把握する。	
新規	家庭学習の充実	全児童	毎日	【ねらい】 基礎学力の定着を図る取組の一つとして、家庭にタブレットを毎日持ち帰り AI ドリルに取り組ませる。	実施状況	月間解答数 400問以上	2・3年生は 月間平均解答数 400問以上 4～6年生は 月間解答数300問以上	どの学年もほぼ毎日 AI ドリルに取り組めるように宿題として出すことはできた。その中で、低学年は 400 問以上達成できた。高学年は、時間と理解度に応じて問題数が変わるために、個人の解答数にばらつきが見られた。また、作図などのワークプリントを併用することもあり、解答数が 400 問には達しなかった。	△
継続・改善	授業力向上(第1PJ)	教員	毎日	【取り組みのねらい・目的】 ・管理職、教科指導専門員による授業指導3回以上 ・タブレットの活用推進(一日一回以上活用)	授業研究実施	授業アンケート 肯定的評価 80%以上	・管理職、教科指導専門員による授業指導3回実施。 ・タブレットの活用(一日一回以上活用)実施。	・管理職、教科指導専門員による授業指導実施し、指導講評や参観教員の感想を通して授業者が改善点に気付くことができた。	◎

重点的な取組事項－3		体力向上に向けた取組の推進				
A 今年度の成果目標		達成基準		実施結果		達成度
健康な体づくり(第1PJ)		○体力・運動能力調査結果 握力・柔軟性・瞬発力・投力の4種目を都の平均に近づける		投力・握力・柔軟性・瞬発力が都の平均を下回っている。 ※下記参照		調査前に、技能ポイントを児童に指導し、よりよい結果が出るよう、実技研修を行う。

B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
健康な体づくり (第1PJ)	外遊びを進んでする 運動することが好き 自己評価90% 以上	外遊びの奨励 エンジョイタイムの実施 (年10回) 長縄跳び(年5回) らんらんタイムの取組(年5回) 体育朝会(年2回)	学校生活振り返りアンケート「休み時間には、外で元気に遊ぶことができた。」の肯定的回答は76.1%であった。	エンジョイタイムでは、長縄跳びと兄弟班遊びを兼ねて実施することができた。長縄跳びについては、今までの経験不足から回数の低さが見られた。指導方法についても校内で共有していく必要がある。	◎
体力・運動能力調査 (第1PJ)	体力・運動能力調査 結果で、握力・柔軟性・瞬発力・投力を区の平均に近づける。	調査結果を基にして強化領域の決定 体育指導技術向上のための実技研修(年3回)	投力・握力・柔軟性・瞬発力は都の平均を下回っている。 【握力(kg)】(-1.65)	瞬発力は都の平均を1.6上回っている。握力、投力は1.2下回っている。柔軟性は4.7下回っている。	△

	数値の変化で考察する。	体力調査の運動につながる体育的活動や運動する機会を創出する。 ・全学年が取り組める体力が高まる場の提案	1年: 男子(-0.8) 女子(-0.8) -1.6 2年: 男子(-1.4) 女子(-0.3) -1.7 3年: 男子(-1.3) 女子(-1.1) -2.4 4年: 男子(-1.4) 女子(-0.6) -2.0 5年: 男子(-0.7) 女子(-0.4) -1.1 6年: 男子(-0.7) 女子(-0.4) -1.1 【柔軟性(cm)】(-4.9) 1年: 男子(-1.8) 女子(-2.1) -3.9 2年: 男子(-3.5) 女子(-2.3) -5.8 3年: 男子(-3.5) 女子(-2.2) -5.7 4年: 男子(-2.4) 女子(-1.8) -4.2 5年: 男子(-1.8) 女子(-3.5) -5.3 6年: 男子(-1.8) 女子(-3.8) -4.5 【瞬発力(回)】(+0.01) 1年: 男子(-0.6) 女子(+1.1) +0.5 2年: 男子(-1.0) 女子(-2.0) +3.0 3年: 男子(-3.1) 女子(-0.3) -3.4 4年: 男子(-3.2) 女子(-2.5) -5.7 5年: 男子(+1.5) 女子(+3.2) +4.7 6年: 男子(+1.3) 女子(-0.3) +1.0 【投力(m)】(-1.9) 1年: 男子(-0.4) 女子(+0.2) -0.2 2年: 男子(-1.7) 女子(-0.3) -2.0 3年: 男子(-1.2) 女子(+0.0) -1.2 4年: 男子(-1.2) 女子(-0.0) -1.2 5年: 男子(-1.8) 女子(-1.5) -3.3 6年: 男子(-3.0) 女子(-1.0) -4.0 体育だよりで体育科の指導法を校内で共有することができた。(3回) 実技研を1回行うことができた。	る。 運動能力調査前に実技研修を行い、正しく測定したり、児童の運動能力向上に努めたりできるようにする。また、柔軟性については特に課題が見られるので、日々の授業の中でも柔軟性を意識した準備運動や補助運動を取り入れることができるように実技研を今年度取り入れる。 連合運動会が実施され、職員の陸上競技に関するポイントを指導する必要があった。陸上競技だけでなく、領域ごとに指導する必要がある。	
食育の推進 (第2PJ)	食育指導の実施	・栄養教諭によるランチルーム給食時の食育指導実施 (各学年3回以上)	・全学年ランチルーム給食を4回以上実施し、発達段階に応じた食育指導を毎回実施した。	4校時のうちに栄養教諭が配膳の準備をしたことで、喫食及び食育指導の時間が確保できた。	○

保健指導 (第2PJ)	保健指導の実施	担任と養護教諭・栄養教諭の連携授業 ・保健指導(3年以上各1回) ・食育指導(2・3年各1回) 発育測定時の保健指導実施(全学年 年3回) 歯みがき指導(各学年1回) ・養護教諭による(2年以上) ・歯科衛生士による(1年)	・具体的方策は全て実施できた。 ・全学年に発達段階や教育課程に合わせた保健指導を発育測定前に実施している。 ・歯みがき指導については、1年、5年対象に竹ノ塚保健所の歯科衛生士と連携し、実施した。(5年は1月実施予定)	歯みがき指導については、感染リスクに対する保護者の理解が必要であるため、「推奨しています」という表現にしている。	△
重点的な取組事項－4					
地域の特徴にあった魅力ある教育活動の展開及び持続可能な学校運営の実現					
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
魅力ある教育活動の展開 (第2PJ)		各学年が地域にある教育資源(人・施設等)を活用した授業を実施する。	全学年…スポーツテストの補助員 3名来校 1年生…生活科の公園での体験 2年生…町探検 3年生…スーパー(ライフ)見学 4年生…ボッチャ体験のスポーツ推進委員 4名来校 5年生…歯科医師による歯科指導の実施 6年生…税務署より租税教室実施	各学年、地域にある境域資源を活用し、様々な取り組みを行うことができた。来年度も引継ぎを行い、同じように価値のある活動をすすめていく。	○
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度

伝統的な言語文化に関する指導 (第1PJ)	席書会の実施(参加率9割以上) かるた、百人一首等の実施状況により考察	書写(硬筆・毛筆)指導 「加平小かるた」(低) 「あだち環境かるた」(中) 「百人一首」(高)の活用	席書会年明け実施予定 「加平小かるた」(低)「あだち環境かるた」(中)「百人一首」(高)は年明け実施	席書会は1月に全学年実施、9割以上の参加達成	○
「六町駅前安全安心ステーション(通称「ろくまる」)」 (第3PJ)	2月 ・児童アンケート 肯定的評価 80%以上 ・各学年の実施状況	・全学年が教科等の関連を明らかにした教育活動実施する。 1年・2年…「ろくまる」に行って働く人や利用している様子を見てその様子を絵に描いたり言葉にしたりする。 3年…「ろくまる」の庭を整備する地域ボランティアの活動や、ろくまる体験の行事など、地域の活動を調べ、学年内で発表会をする。 4年…誰もが住みやすい町であるために「ろくまる」では、どんな工夫をしているか調べ、仕事を一緒に行わせていただき、1年生またはたてわり班の人に紹介する。 5年…「ろくまる」の方に、六町のためにどのような思いで努めているか、どのようなことをされているのかをインタビューし、新聞、パンフレットにまとめて校内に紹介する。 6年…「ろくまる」がどのようにできたか歴史を調べたり区役所や「ろくまる」の方に聞いたりしてまとめる。自分たちが地域のためにできることはないか考え、「ろくまる」の方と相談し、活動したり地域に呼びかけたり、ろくまるに統計グラフやポスターを貼らせていただいたりする。	各学年が「ろくまる」に関する学習に取り組んだ。児童アンケートは2月に実施	低学年は生活科の町探検で訪れた。ろくまるについて知るために疑問や知りたいことをインタビューし、まとめた。 6年生は総合的な学習で自分たちの住むの町について調べる際、実際に「ろくまる」を訪れて話を聞いた。 地域の働いている人に実際にインタビューし、話を聞くことで、自分たちができることや、地域のことを知ることにつながる。	△

タブレット端末を活用した ICT 教育の推進 (第1PJ)	・区が実施する児童・教員アンケートによる実施状況を確認する。 児童…前年比増 教員…前年比増	・年に3回、教員を対象にした OJT 研修を実施する。 ・全学年、毎日のタブレット端末の持ち帰り、家庭学習で使用する。 ・AI ドリルの活用を促進する。	・授業に役立つアプリケーションの紹介 ・プログラミング教育について ・AI ドリルの活用について 以上、全3回の OJT 研修を実施した。	全3回の OJT 研修を実施することができた。今年度は、ICT 支援員が授業に役立つアプリケーションを紹介した。来年度は、各学級で、どのような場面でどのようなアプリケーションを使っているのかを伝えることで、より実践的な研修を実施したい。	◎
地域との連携 (第2PJ)	実施状況で考察する。 または アンケート	開かれた学校推進協議会と共催で「加平みそづくり」「漢字検定」「算数検定」「茶道教室」「落語教室」を開催する。	計画した活動はすべて実施することができた。(漢字検定は1月実施予定)	児童だけでなく保護者にも参加を促し、連携を図っていききたい。	◎
「加平小学校 2020 レガシー」 (第1PJ)	アンケート 「様々な人とスポーツ(ボッチャ)をすることができた」 肯定的評価80%以上	「障害者理解」に関する具体的な取組として、障害者の有無に関わらず誰もが楽しめる障害者スポーツ、ボッチャを通じた交流活動を実施することで共生社会の意義を理解させる。 全学年でボッチャを実施 縦割り班活動においてボッチャ大会を実施	実施後アンケートにおいて肯定的な回答が95%であった。	今回のボッチャ体験教室を通して、4年生は総合的な学習の時間「福祉について調べよう」の学習につなげることができた。簡易的なルールにして、どの学年でもボッチャセットを活用して、体験できるようにしていく必要がある。	◎

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

重点的な取組事項ーⅠ 人権と生命を尊重する教育

「学校は楽しい」の項目は自己評価91.9%で設定目標を達成することができなかった。これまでの教育活動に新たな方法や取組を模索しながら、人権教育や道徳教育の充実、ふれあい月間、たてわり班活動、音楽集会・鑑賞教室等による心の教育の充実を図る。今年度は集会や教員・PTAによる挨拶活動に加え、児童による挨拶活動を通年で取り組んだことにより、適切な声で挨拶する子供が増えてきた。立ち止まって挨拶をする子や廊下ですれ違う時に会釈をする子も増えてきている。規律ある行動ができるよう、生活指導の基本方針に掲げている「み・そ・あ・じ」の取組を中心に指導していく。また、自己肯定感を育ませるために、環境かるた・将棋大会・百人一首等の練習や土曜授業で、保護者も含めて取り組む等、様々な場面で得意なこと・好きなことに取り組める場を設定する。

重点的な取組事項－２ 基礎的・基本的な学力の定着(学力向上アクションプラン)

区学力調査通過率８０％以上を目指してきた。結果、通過率は国語８２．８％、算数は８３．３％で目標を達成することができた。また、平均正答率が７０％以上の学年は、国語は３学年（２年生、３年生、４年生）算数は４学年（６年生以外）であった。平均正答率が７０％以上に達しなかった学年は、平均正答率が３０％未満の割合も高い傾向にあり、差が広がっている傾向がみられた。そこで、目標値に達しなかった児童に関しては、放課後指導において、個に応じた課題を用意し、指導配置の教員も増やして、取り組んだ。結果、半数以上の児童が再テストにおいて２ポイント以上あげることができ、１０ポイント程度上回る児童もいる結果となった。また、教員同士で授業を見合うことを年間６回以上目標とし、授業後には感想を伝え合い、研鑽につなげ、各自の授業力向上につなげている。

重点的な取組事項－３ 体力向上に向けた取組の推進

健康な体づくりのために体育の授業やエンジョイタイム等の中で、できることは何かと考え、体力向上と健康な体づくりに努めてきた。体育部による実技研修や授業に関する資料の提供により、短縄跳びの取組や陸上運動、持久走の取組などに取り組んだ。今年は短期間に集中して実施したり、加平ギネスを作成したりして、児童の意欲づけを行った。保健指導・食育指導についても、各学年の健診前の保健指導、給食だよりやランチルーム給食による食育指導などできる指導を実践してきた。今年度は、常にＰＤＣＡ（計画→実践→評価→改善）のサイクルで改善し続けてきたことで成果を上げている。今年度も常にＰＤＣＡサイクルを大切に取組の充実に努める。

重点的な取組事項－４ 地域の特色にあった魅力ある教育活動の展開及び持続可能な学校運営の実現

カリキュラムマネジメントを充実させ、教科等を横断した学習活動を通して現代社会の課題を主体的に学び解決していこうとする意欲を育むとともにSDGsを意識した持続可能な社会の担い手としての意欲と態度を育成・開発する。例えば、各学年において、教科等との関連を明らかにして、地域にある「六町駅前安全安心ステーション(ろくまる)」を活用した教育活動を展開する。また、全学年、毎日、タブレット端末を持ち帰りタブレット端末を活用した家庭学習を行う。加えて、障害者の有無に関わらず誰もが楽しめる障害者スポーツ、「ボッチャ」を通じた交流活動を実施することで共生社会の意義を理解させる。更に、俳句や「加平小かるた」、「決まり字かるた」、「あだち環境かるた」の活用や席書会の実施等、伝統的な言語文化に関する指導を通して古典に親しみながら我が国の伝統と文化に対する理解と愛情を育むなどの教育活動を展開する。学校・家庭・地域の連携・協働を高め、地域と共に育てる教育の推進と特色ある学校づくり、持続可能な学校運営組織の構築を進める。

（２）保護者や地域へのメッセージ

- 学校、家庭、地域にはそれぞれの役目があります。学校は、子供たちに学力や体力をはじめ、人格形成の基礎を身に付けさせていく役目があります。また、子供たちに基本的な生活習慣が身に付くようにして、学習効果を高めていくことも役目です。この基本的な生活・学習の習慣を身に付けることは学校だけでも家庭だけでもできません。互いが同等な関係で、それぞれの役割を果たすことが重要です。基本的な生活・学習の習慣の土台は、家庭であり、家庭の協力が必要不可欠です。「躰」「健康管理」「家庭学習習慣」「社会規範（きまり）を守る」などは家庭の役目です。そして、家庭・地域・学校にとって共通の役割は、子供たちに「忍耐強さ」「根気強さ」「自制心」（心の強さ）、「意欲」・「誠実さ」・「好奇心」（興味・やる気）、「社会性」・「協調性」（思いやり・協力）「人とかかわる力」などの力を育てていくことです。家庭で基盤をつくり、学校で知識や知恵を身につけ、地域で実践していくような連携がとれることを願っています。学校・家庭・地域が互いに同じ方向を向いて、子供に働きかけることが大切です。「子供たちのために」とともに力を合わせてまいりましょう。
- 保護者・地域の皆様の学校に寄せる熱い想いを強く感じています。学校は、子供あつての学校、地域あつての学校だと考えます。ですから、学校は、子供や保護者、地域の声に耳を傾け、その願いや思いを受け止めて教育活動を推進し、「笑顔輝く加平小学校」を実現していきたいと考えます。そのためにも、学校は、子供たちの学校での学習面・生活面の状況を保護者の皆様や地域の皆様に積極的に発信することで共有し、協働して子供たちに働きかける体制を確立していきたいと思えます。

（３）その他（学校教育活動全般について）

平成26年度に新校舎に移転してから11年が経過した。新校舎の恵まれた環境を生かした教育活動を進めてきている。来年度の新入児童数は100名3学級が見込まれている。全校児童は602名、学級数も18学級の予定である。特別支援教育については、特別支援教室を中心に学級との情報交換を密にし、個に応じた指導をさらに充実させ、児童一人一人のよさを引き出す指導を推進していく。またビオトープを生かした環境教育や道徳教育や特別活動の充実を図り、豊かな心の育成にさらに力を入れていく。何よりも日常の授業を大切に、「人とかかわる力」「自分を知る力」「解決する力」等も育成していきたい。今後も児童数・教職員数ともに増加が見込まれる。これをチャンスと捉え、学校全体を活性化させ、チャレンジ精神をもって教育活動を充実させていくとともに、家庭・地域との連携を強め、ともに子供に働きかけていく体制を強化していくことが本校の使命である。